

- 1 日 時 令和2年(2020年)7月23日(木)10時00分～11時00分
- 2 場 所 筑波東中学校 体育館
- 3 市出席者 公有地利活用推進課 課長、課長補佐、係長、係員1名
ジオパーク室 室長、係員1名
- 4 一般参加者 16名

5 内 容

(1) 説明内容

筑波東中学校跡地利活用(案)について、別紙説明会資料を用いて説明した。

(2) 質疑・意見交換(●:参加者、○:公有地利活用推進課、□ジオパーク室)

- 栗駒山麓ジオパークビジターセンターの事例紹介があったが、当センターの利用者数や年齢層等が分かれば教えてほしい。

→□月2千人、年間2万4千人程度が利用しており、団体利用者が6割、個人利用者が4割と伺っている。ジオパークの関係者に加え、地域の方々が訪れ、地域の交流施設になっていると聞いている。

- 筑波東中学校までのアクセスや、ジオパークへの誘導をどのように考えているか。

→□筑波東中学校は国道125号線に近接しており、つくバスや関鉄バスでのアクセスも良い。ジオパークへの誘導は、設置予定の案内所による案内等を行っていく。つくば市以外の5市にも案内所や拠点施設があるので、地域全体で連携していきたい。

- 国道125号線から筑波東中学校までのルートについて、大型バスはアクセスできるのか。

→□車でのアクセスは南門から、自転車でのアクセスは、りんりんロードが通っているので、西門からのアクセスを考えている。中型バスであれば問題なくアクセスできると考えているが、大型バスのアクセスについては、今後検討していく。

- ジオパーク拠点施設について、どのように情報発信していくのか。

→□市の広報誌や観光パンフレット、HP、フェイスブック、ツイッター等のSNSや全国のジオパークネットワークもあり、連携しながら情報発信していく。

- 筑波山地域ジオパーク推進協議会は6市で構成されているとのことだが、他市との連携、連絡はどのように行っているのか。
 - 事務局本部はつくば市にあるが、各市にジオパーク担当部署が設置されており、担当部署とは月に1回会議を開いて情報共有や事業の検討を行っている。また、6市による市議会議員連盟も設立されており、アピールしていく体制が整っている。現在、6市の事務局がばらばらになっているので、拠点施設設置をその課題解決のきっかけにしていきたいと考えている。
- 展示室の機能について、体験、実験コーナーは必須である。地形と防災は関係性があるので、防災教育も行っていきたい。秀峰筑波義務教育学校は浸水想定区域に入っており、風水害時は使用できないので、避難所機能も設けてほしい。
 - 防災関係については、庁内の担当部署に御意見を伝える。
 - 学校跡地の利活用であることから、教育には力を入れていきたいと考えている。これまでも市内の学校で出前授業等を実施しており、機会を増やしていきたい。実験については、元筑波大学の先生と連携して、講座等を開くことを検討している。
- 旧北条小学校にある岩石園を活用して、ジオパーク全体の岩石が分かるようにすると良いと思う。
 - 岩石園の件は承知しており、地域によって岩石の成り立ちも違うので、紹介方法等考えていきたい。
- ジオパークに関する企画は良いと思う。ぜひ進めてほしい。以前、筑波山地域の会員が約2,000名いると聞いたことがあるが、誰が会員なのか分からない。北条小学校の跡地利用も良いことだが話が進まない。昨年、筑波東中で催しも行われ、りんりんロードもあるので足湯を整備したらどうかという意見も出たが、誰が運営するかははっきりしない。ジオパーク中核拠点になるなら、事業がスタートするまでの間、ジオパークの会の責任者というか代表者をつくってほしい。
- 6市に事務局があり、その中で専門部会が3つあり、専門部会で様々な協議をしている状況。地元での盛り上がりには欠けることが懸念されているので、必要性はあると思う。しかし、まずは、今年度に予定されているジオパークの再認定をクリアすることが先決である。
 - 施設は、最短でも令和5年度のオープン予定だが、それまでに、講演会、ツアー、実験等により、ジオパークに触れていただく機会を設けていきたい。地域に誇りをもってもらえるような施設にしていきたい。

- ジオパーク拠点施設について、他市の経費負担はあるのか。また、筑波山という観光資源との連携も必要になると思う。外から人が来ると良い場所であると認識されるが、地域にとっても良い場所と思ってもらえるように、観光と密接につながる施設にしてほしい。団体が筑波山に来る際には、ジオパーク拠点に来て筑波山のあり方を学び、その後、筑波山に登るような流れが出てくると良い。

→□協議会の活動経費については、各自治体が負担金を出しているが、今後活動していくためには、お金がまわる仕組みづくりが必要。現段階での案は、ジオガイドがお金を稼ぎ、ジオガイドから協議会にお金が入り、協議会はそのお金をジオサイトの保全に回すような、循環する仕組みをつくりたい。筑波山登山をする学校等があれば、当然ジオパーク中核拠点施設に来てから筑波山に登る、または、登った後にジオパーク中核拠点施設に寄ってもらう等連携していきたい。

- 予算の面等、ハードルは高いと思うが、筑波東中学校跡地について、道の駅を整備したらどうか。廃校を活用した道の駅の事例はある。検討していただければと思う。

→○確かに、道の駅は市内になく、筑波山という観光資源もあり、地元の物販にもつながる施設であるが、市域全体で設置場所等考えていかなければいけないと思う。御意見として承ります。

- 整備にお金をかけても、その後、機能を廃止してしまう事例もある。本件についても、最悪の事態になってしまっては困る。筑波山地域で連携して、事業を実施していただきたい。筑波山地域に、雪入ふれあいの里公園があり、当時の予算で、整備に大きな金額がかかったすばらしい施設であるが、現在は1日に1人利用者が来るかというさびしい状態である。ガイドは常駐しているが来客がない。このような施設は連携している市町村で広報をしていかないと先細りになってしまう。各市町村が自分の市町村を中心に動いているような印象を受けており、各担当部署の連携がうまくいっていないように感じる。このような状況ではジオパーク拠点施設を整備しても無駄が生じる気がするため、連携について、他市に訴えかけて、お互いに連携してほしい。

→□雪入ふれあいの里公園もジオパークの拠点施設の一つとなっているので、相乗効果を出せるような取り組みをしていきたい。

- ジオパーク拠点施設は、つくば市が単独で整備するのか、それとも6市で連携して整備するのか。

→□ジオパーク拠点施設は、つくば市の施設のため、つくば市が費用負担する。しかし、ジオパーク全体の中核拠点施設との位置付けのため、各市にはお金

ではなく、事務局や連携強化等の人的部分で連携していく。各市で負担すると、誰の財産か不明確になる等の問題が生じる。

●特徴的な地形が見られる等の内容を記載した案内板は設置しているのか。

→□地域全体を紹介する総合案内板やジオサイトの見所を紹介する解説板・誘導板があり、現状、筑波山では筑波山神社下のロータリー、観光案内所、梅林に総合案内板がある。他市についても、それぞれ見所についての看板設置を各市の予算で進めている。看板はもとより、それを案内するジオガイドが57人もいるのでそういった人をできれば案内所等に配置して地域の良さを伝えていきたい。

●先ほど会員が約2,000名との話が出たが、ジオガイド57人との関係性はどのようなものか。また、施設ができることによる雇用効果はあるか。

→□ツアー情報やイベント等のお知らせを提供している対象として、ジオパークのサポーター会員制度があり、約2,000名の会員がいる。ジオガイドとは、講座を受講し認定された方で、6市全体で57人である。今後、スキルアップ講座も予定している。県外や市外の方もおり、地元の人よりも筑波山地域の良さを詳しく知っている人もいる。街歩きジオツアーなどを開催し、地元の人に魅力を伝えていきたい。

以 上